



これは、当時地獄絵図だった現実を目の当たりにした作者が、雑誌に載せられるギリギリのレベルまで忠実に当時の現実を再現した物語です。これが現実だったのです
この作品は後世に残さなければいけないとても重要な作品です。読んだことない人は人生の課題図書として読むべきだと思います。

人生の課題図書

つらいことは忘れたい
しんどいことは避けたいな
でも

忘れようにも
忘れられない人がいる
今につながって

こどもの放射線量に
恐れと怯えを

抱える母たちがいる
日本で起きたことが

日本だけにとどまらない
現実を

今

日本国が持っている

この国に

住んでいる私たち



昨年亡くなった 中沢啓治氏に 応えることは…

学校の図書室にこの作品をおくな！と言われる方々もいらっしやいます、しかし作者中沢啓治氏が伝えたい事：それは家族愛であり絆であると思えます大切な家族が戦争 核兵器によって引き裂かれ、その後焼け跡の中で出会った友人達との絆：その後も続いていく悲しい別れを乗り越え逞しく成長していく主人公の中岡元：その姿こそ現代の子ども達に伝えたい事であると思えます。(S)

聞く劇場 「はだしのゲン」運営サークル企画

浅妻さんは、「はだしのゲン」をロシア語に初めて翻訳。それがキッカケで20ヶ国語に翻訳出版されています。その普及の活動や、中沢啓治さんとの交流などをお話していただきます。また、中沢さんのドキュメンタリーDVDも鑑賞。
プロジェクト・ゲン代表

浅妻南海江さんのお話を聞く会&

DVD『はだしのゲンが見たヒロシマ』を見る会

今こそ「はだしのゲン」

●資料代カンパ300

日時◆8月6日(火)1時30分～3時30分 会場◆近江町交流プラザ 4階集会室

TV劇場 芝居の前に必見の番組です。

NHK「クローズアップ現代」7月30日(火)19:30～20:00

「はだしのゲン」の脚本・作詞・演出の木島恭さんが、「はだしのゲン」が持っている“物語の力”を軸に、演劇という方法で、見た人が共通の体験として実感するというこの作品について語ります。また、浅妻さんの「はだしのゲン」の翻訳や広げる活動についてのインタビューがあります。芝居にせまるのにつけて。

どちらも、会員以外の方にも勧めていただき入会のキッカケづくりに…。